



# 2008 知的財産報告書



## 経営理念

生物個体からゲノムにいたる

生命資源の開発を通じて

基盤研究および医学・医療の場に

遺伝情報を提供し

その未来に資するとともに

世界の人々の健康と豊かな

暮らしの実現に貢献する



## Contents

ごあいさつ 01

会社の概況 02

会社概要／企業沿革／事業区分と事業内容／  
事業拠点／研究開発拠点

研究開発・事業戦略 04

中核技術と事業ドメイン／研究開発セグメントと事業戦略の方向性

知的財産戦略 07

知的財産戦略の方針／事業ドメインと知的財産の関係／  
事業戦略、研究開発戦略、知的財産戦略の横断的な取り組み／  
知的財産業務における社外機関との連携／  
知的財産・営業秘密管理等／リスク対応情報

# ごあいさつ



株式会社トランスジェニックは、製薬企業や大学・研究機関などとの協力体制のもと、人々の健康、より豊かな生活に貢献する製品の研究開発、その支援業務を行っております。

当社が事業を展開するライフサイエンス産業においては、事業の中核をなす知的財産の確保が成功への鍵と言えます。当社は、ゲノム創薬の開発スピードを促進させる遺伝子破壊マウスやその解析技術について優位性を持ち、また、将来性が期待される診断薬や抗体医薬につながる革新的な抗体作製技術を起点としたタンパク質関連技術においても優位性を有しております。この遺伝子破壊マウス事業と抗体事業という、2つの事業を軸に、ポストゲノム時代の研究開発やその研究支援事業を展開しています。今後の事業の付加価値を高めるために、必要な技術や知的財産は、自社開発のほかに、社外からのライセンスインも積極的に進め、迅速な確保を目指しています。

また、治療薬や診断薬といったエンドプロダクトの製品化については、積極的なライセンスアウトを行い、事業のシナジー効果が期待される製薬企業などとWin-Winの関係を築いております。この創薬に向けた協力体制により、付加価値の高い医薬、診断薬を社会に提供すべく努力してまいります。なお、製薬企業との共同・受託研究に当たっては、研究資源や技術情報の管理指針の確立に努め、情報流出の防止を徹底しており、確固たる信頼関係を構築しています。

この知的財産報告書により、当社の事業、研究開発や知的財産の概要、これらに対する基本姿勢や方向性をお読み取りいただければ幸いです。

2008年5月

代表取締役社長 是石 匡宏

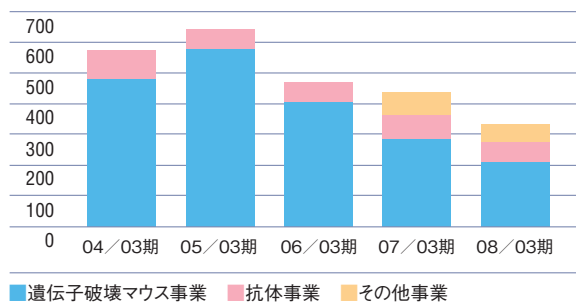
# 会社の概況

## 会社概要 [2008年3月31日現在]

|         |                                     |
|---------|-------------------------------------|
| 社名      | 株式会社トランスジェニック<br>(TRANS GENIC INC.) |
| 本社      | 〒860-0812<br>熊本県熊本市南熊本<br>三丁目14番3号  |
| 設立      | 1998年4月                             |
| 代表取締役社長 | 是石 匡宏                               |
| 資本金     | 4,855百万円                            |
| 決算期     | 3月31日                               |
| 従業員数    | 41名                                 |
| 事業内容    | 遺伝子破壊マウス事業<br>抗体事業<br>その他事業         |
| 連結子会社   | 株式会社プライミュン                          |
| 関連会社    | 株式会社イムノキック<br>株式会社エコジェノミクス          |
| 取引先     | 製薬会社、大学、研究機関など                      |

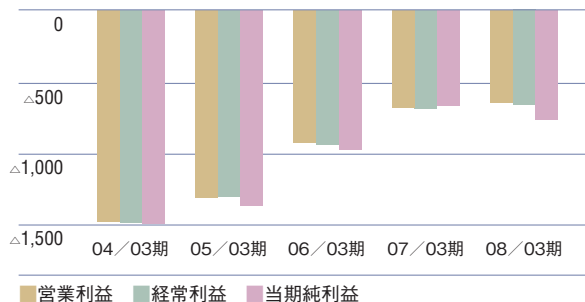
### 売上高の推移

[百万円]



### 損益の状況

[百万円]



注)07/03期より連結決算の数値を記載しております。

## 企業沿革

|          |                                                                                                              |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1998年 4月 | 株式会社クマモト抗体研究所設立<br>抗体の開発、製造、販売事業開始                                                                           |
| 2000年 4月 | 遺伝子トラップマウス作製技術の基本特許を<br>獲得、遺伝子破壊マウス事業開始<br>社名も株式会社トランスジェニックへ変更                                               |
| 2001年12月 | 山之内製薬株式会社（現 アステラス製薬）<br>との遺伝子破壊マウスの技術情報のライ<br>センス契約締結<br>住友化学工業株式会社（現 住友化学）と<br>の遺伝子破壊マウスの技術情報のライ<br>センス契約締結 |
| 2002年12月 | 東京証券取引所マザーズ市場に上場                                                                                             |
| 2004年 3月 | GANP®マウス技術の基本特許の独占的<br>ライセンスを獲得、事業開始                                                                         |
| 6月       | 山之内製薬株式会社（現 アステラス製薬）<br>との新規創薬標的遺伝子関連特許の共同<br>出願                                                             |
| 8月       | 住友化学工業株式会社（現・住友化学）・住<br>友製薬株式会社（現・大日本住友製薬）と<br>の新規創薬標的遺伝子関連特許の共同出願                                           |
| 2005年 7月 | 神戸研究所を新設                                                                                                     |
| 2006年 4月 | 国内診断薬メーカーとのGANP®マウス技<br>術のライセンス契約締結                                                                          |
| 5月       | 株式会社プライミュンを子会社化<br>遺伝子発現、組換えタンパク質生産・精製<br>技術を導入                                                              |
| 6月       | 癌マーカー特許が成立（国内）                                                                                               |
| 9月       | 「TG Resource Bank®」を公開、新たな使<br>用権許諾ビジネス開始                                                                    |
| 10月      | 新規抗体作製技術DNA免疫法を導入、事<br>業開始                                                                                   |
| 11月      | 海外製薬企業とのGANP®マウス技術のラ<br>イセンス契約締結                                                                             |
| 12月      | GANP®マウス技術関連特許が成立（米国）                                                                                        |
| 2007年 4月 | 「リプロダクティブ・テクノロジー研修セ<br>ンター」を開設、生殖工学領域の研修ビジ<br>ネス開始<br>タンパク質高発現系技術IR/MAR法の特許<br>ライセンスを獲得、事業開始                 |
| 10月      | 遺伝子改変技術相同組換え法の基本特許の<br>ライセンスを獲得                                                                              |
| 12月      | 可変型遺伝子トラップ法関連特許が成立<br>（米国）                                                                                   |
| 2008年 2月 | バイオ試薬販売サービス「試薬直送便」<br>開始                                                                                     |

抗体事業

遺伝子破壊マウス事業



## 事業区分と事業内容

| 事業区分       | 事業内容                                                             |
|------------|------------------------------------------------------------------|
| 遺伝子破壊マウス事業 | 遺伝子破壊マウスに関する情報の独占的・非独占的使用権許諾、<br>遺伝子改変マウス作製・マウス表現型解析等の実験動物に関する受託 |
| 抗体事業       | 抗体製品の開発・製造及び販売、高親和性抗体の作製技術に関する使用権許諾、<br>抗体・タンパク質関連の受託            |
| その他事業      | タンパク質生産・精製技術を応用したバイオ研究用試薬の開発及び販売、<br>生殖工学技術研修                    |

## 事業拠点

- ◎熊本本社 熊本県熊本市南熊本三丁目14番3号
- 神戸研究所 兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番地14
- 油日研究所 滋賀県甲賀市甲賀町五反田1405
- 福岡支店 福岡県福岡市中央区天神一丁目1番1号  
アクロス福岡東オフィス9階
- 東京オフィス 東京都中央区京橋三丁目9番2号  
宝国ビル7階



## 神戸医療産業都市



## 研究開発拠点

当社は、2005年7月に新設した神戸研究所に、研究開発および営業活動の拠点を集約し、研究開発の効率化および事業基盤の強化を図っております。神戸研究所は、「神戸医療産業都市構想」の下、医療関連企業や研究機関の集積が進む神戸ポートアイランド第2

期地区に位置しており、地区内における人的・技術的交流が当社事業の発展に大きく寄与しております（図参照）。

# 研究開発・事業戦略

## 中核技術と事業ドメイン

当社は、遺伝子破壊マウス作製技術、抗体作製技術、タンパク質生産技術の3つの中核技術を軸に事業を展開しております。

遺伝子破壊マウス作製技術については、大規模かつ網羅的な遺伝子トラップマウス作製に利用される可変型遺伝子トラップ法、ジーンターゲット法による特定遺伝子の遺伝子破壊マウス作製技術に加え、これらを支えるES細胞培養・生殖工学に関連する技術プラットフォームが構築されています。

抗体作製技術については、GANP遺伝子改変動物を用いた高親和性抗体作製技術（GANP<sup>®</sup>マウス技術）およびDNA免疫法による新規抗体作製技術からなる技術プラットフォームを有しています。また、これに関連する周辺技術として、IR/MAR遺伝子増幅法によるタンパク質高発現系技術（MARX<sup>™</sup>法）遺伝子発現、組換えタンパク質生産・精製技術からなるタンパク質関連の技術プラットフォームがあり、抗体作製技術を起点として、タンパク質関連の技術プラットフォームのさらなる拡充を図っております。

当社は、これらの中核技術をもとに、遺伝子破壊マウス事業、

抗体事業を展開しております。当社は、これら中核技術を融合させ、事業間の連携・シナジー効果を一層強めながら、より付加価値の高いサービスを提供するとともに、創薬へとつながる研究開発を活発に進めております。

## 研究開発セグメントと事業戦略の方向性

当社の研究開発は、中長期戦略として創薬ターゲットの探索研究、中期的戦略としてバイオマーカーを用いた診断薬の開発および短期的収益に寄与することを目的とした新規技術開発の3つの研究開発テーマを進めております。

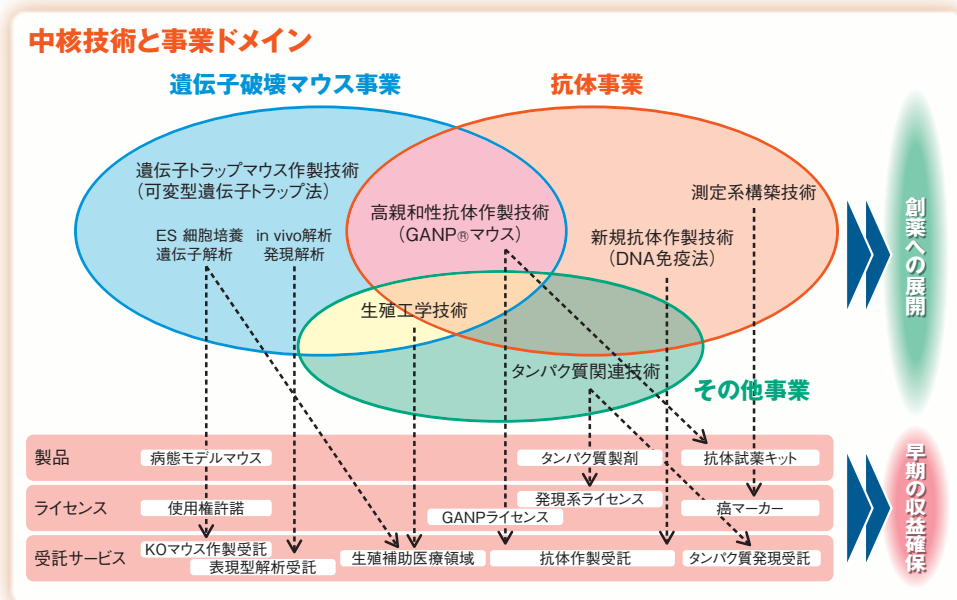
創薬ターゲット探索では、当社がこれまで蓄積してきた生命資源ライブラリー「TG Resource Bank<sup>®</sup>」からの創薬ターゲット探索を目的として、各種の解析を進めています。

バイオマーカーを用いた診断薬開発では、尿中腫瘍マーカーによる癌診断の開発が最も進んでいるテーマです。また、糖尿病関連ターゲットに対する抗体を作製するとともに、糖尿病関連測定系システムの構築にも取り組んでおります。

新規技術開発では、遺伝子破壊マウス事業拡充を目的として、

複雑で高度な遺伝子破壊マウス作製や他系統のES細胞導入など遺伝子改変技術の開発に取り組んでおります。一方、タンパク質関連の技術プラットフォームの一つとして2007年度に導入したタンパク質高発現系技術（MARX<sup>™</sup>法）の技術検討を行い、事業化に至りました。また、市場ニーズの高い新規抗体の開発を継続的に進めております。

以上のような研究開発テーマに取り組みながら、各事業ドメインにおいて次のような事業を展開しております。



## 遺伝子破壊マウス事業

当社は、遺伝子破壊マウス事業において、遺伝子破壊マウスおよび遺伝子破壊ES細胞についての独占的・非独占的使用権許諾、遺伝子改変マウス作製および解析等の受託などの事業を展開しております。

### 1) 遺伝子破壊マウスに関する情報の独占的使用権許諾

当社は、遺伝子トラップマウス作製技術により、大規模かつ網羅的に遺伝子破壊マウスおよび遺伝子破壊ES細胞を作製してまいりました。アステラス製薬株式会社および住友化学株式会社の2社に対して、当社が作製した遺伝子破壊マウスから得られる情報を優先的・独占的に提供する契約を締結しております。本契約に基づく遺伝子配列情報の提供は完了しておりますが、特定のマウス系統に関しては、引き続き遺伝子破壊マウスの継続的使用権のライセンスビジネスを行っております。そして、将来のマイルストーンフィーやランニングロイヤリティを獲得するための知的財産権の確保に努めております。

### 2) 遺伝子破壊マウスに関する情報の非独占的使用権許諾

遺伝子トラップマウス作製技術により大規模・網羅的に作製した遺伝子破壊マウスおよび遺伝子破壊ES細胞のライブラリーを「TG Resource Bank®」として、当社ウェブサイト上にて公開しております。現時点で、およそ750系統の遺伝子破壊マウスおよび2,000クローンの遺伝子破壊ES細胞に関する情報を公開しており、国内外の製薬企業、研究機関などが自由に閲覧することができます。また、2008年4月には、国立遺伝学研究所（生物遺伝資源情報総合センター）が管理運営するマウス・ラット系統共通検索システム（JMSR）にも情報が登録されました。

当社は、これらの系統に関して、非独占的な使用権許諾に基づくマウスの提供を行っております。同サービスは、新規創薬ターゲット探索や遺伝子機能の解明に寄与することが期待されています。

### 3) 実験動物に関する受託

#### ① 遺伝子改変マウス作製受託

当社は、作製効率の良いES細胞を導入し、ジーンターゲティング法による遺伝子改変マウス作製技術により、顧客の求める遺伝子改変マウスを受託作製しております。当社は、遺伝子改変マウス作製受託業務にかかる「遺伝子改変技術相同組換え法」特許の実施権を取得しております。これにより、当社の顧客はかかる特許のライセンス許諾を受けることなく、遺伝子改変マウスを使用して遺伝子機能解析や創薬ターゲット探索・評価などの研究が可能です。

#### ② マウス表現型解析受託

特定遺伝子の機能を解明する場合、その遺伝子を改変したマウスの表現型を解析することにより個体レベルでの遺伝子機能を解明することが可能となります。当社は、これら遺伝子機能の解明を目的とした遺伝子改変マウスの表現型解析の受託サービスを行っております。当社が提供する解析サービスは、マウス個体の出生直後の観察から成体での各種行動検査、剖検後の詳細な各種検査にいたるまで、顧客の目的に応じた網羅的な解析が可能です。

#### ③ 遺伝子改変動物の胚・精子凍結保存等の受託

当社は、遺伝子改変動物の凍結胚・凍結精子の作製およびこれらの凍結保存サービスを提供しております。また、凍結胚や

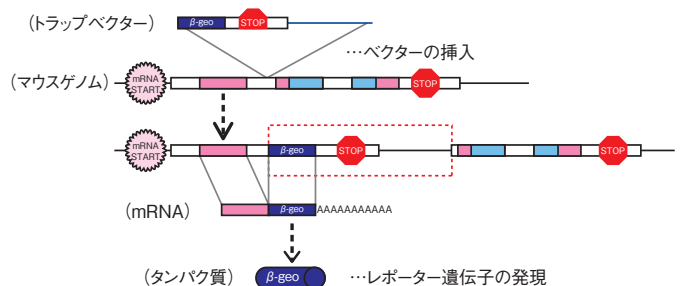
## Key Technology

### 遺伝子トラップマウス作製技術とその優位性

当社の遺伝子トラップマウス作製技術は、熊本大学の山村研一教授（当社非常勤取締役）らが開発した技術です。可変型遺伝子トラップ法は、トラップベクターと呼ばれる遺伝子断片をマウスES細胞に導入し、遺伝子をランダムに破壊することによる

遺伝子破壊マウスの作製方法です。このトラップベクターは、遺伝子の発現を制御するプロモーターをトラップ（捕捉）するよう設計されており、内在性プロモーター下流に挿入された場合にのみ機能することが特徴です。このトラップベクターによりマーカー遺伝子が発現し、同時に挿入されたpolyA付加配列により、挿入部位直下の遺伝子の発現が阻害されます。マーカー遺伝子の発現を目印にすることで、効率的な遺伝子破壊ES細胞を構築できます。

本技術の優位性は、個別の遺伝子に応じてベクターを作製する従来方法に比べ、何種類もの遺伝子破壊マウスをたった一種のトラップベクターで作製することができる点です。また、応用例として創薬ターゲットとなる遺伝子やヒト遺伝子を挿入した変異マウス作製などが可能となります。





# 研究開発・事業戦略

凍結精子からの個体作製、病原微生物クリーニング（SPF化）等のサービスも行っております。

## 抗体事業

当社は、抗体事業において、基礎研究用試薬としての抗体製品の開発・製造販売、高親和性抗体の作製技術に関する使用権許諾、抗体・タンパク質関連の作製受託などの事業を展開しております。

### 1) 抗体製品の開発・製造販売

当社は、独自技術であるGANP<sup>®</sup>マウス技術やDNA免疫法を活用し、タンパク質機能解析に有用な抗体を開発、製品化し、基礎研究用試薬として提供しております。主に癌・メタボリックシンドロームなどの市場性の高い抗体製品のラインナップを充実させるべく、新たな抗体製品の開発を積極的に進めております。

### 2) 高親和性抗体の作製技術に関する使用権許諾

当社は、抗体医薬や診断薬を開発する製薬企業、診断薬メーカーなどに対してGANP<sup>®</sup>マウス技術ならびにそれらの技術で開発した抗体についてライセンスビジネスを展開し、現在、複数の診断薬メーカーとの間でGANP<sup>®</sup>マウス技術に関するライセンス契約を締結しております。

### 3) 抗体・タンパク質関連の作製受託

当社は、GANP<sup>®</sup>マウス技術を用いた抗体作製受託サービス、DNA免疫法による抗体作製受託サービス、そのほかの抗体作製技術を利用した受託サービスを提供しております。また、IR/MAR遺伝子増幅法によるタンパク質高発現系技術を用いたタンパク質大量発現受託サービスも提供しております。本技術は、バイオ医薬品などのタンパク質製品の工業生産ならびにタンパク質の構造や生理機能の研究への利用が可能です。

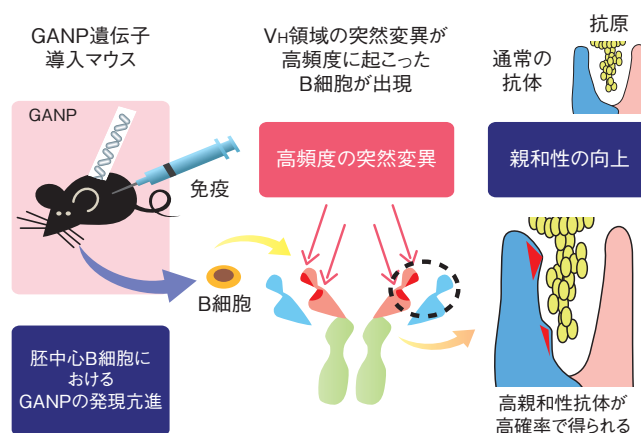
## Key Technology

### 高親和性抗体作製技術とその優位性

GANP (Germinal center Associated Nuclear Protein) 遺伝子改変動物を用いた高親和性抗体作製技術 (GANP<sup>®</sup>マウス技術) は、熊本大学の阪口薫雄教授らが開発した技術です。

GANP<sup>®</sup>マウスは、野生型マウスに比べ、抗体を産生するB細胞でGANP遺伝子の発現が亢進し、GANPタンパク質の働きにより、抗体の変部位領域に突然変異が高頻度で起こります。その結果、高確率で高親和性抗体や高特異性抗体を作製することが可能となる技術です。

本技術の優位性は、通常の抗体作製手法に比べ、親和性の非常に高いモノクローナル抗体の作製が可能であり、抗体医薬、診断薬、研究試薬、抗体を用いた各種測定系などの開発に広く応用できる点です。



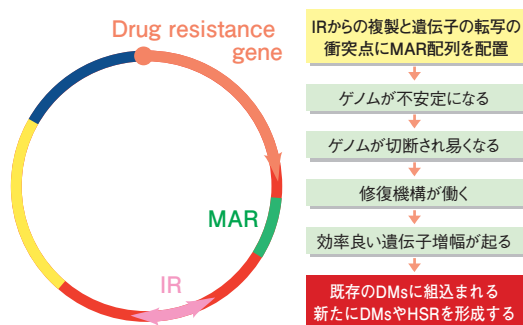
## Key Technology

### タンパク質高発現系技術とその優位性

当社のタンパク質高発現系技術は、広島大学の清水典明准教授が開発したIR/MAR遺伝子増幅法を利用したタンパク質高発現系技術を事業化しています。

IR/MAR遺伝子増幅法とは、がん細胞の遺伝子増幅機構を利用したもので、IR/MARベクターと目的遺伝子を哺乳動物細胞に導入することにより効率良くタンパク質の大量生産が可能になります。IR/MARベクターは、DNA複製に必要なIR (Initiation Region) 配列とMAR (Matrix Attachment Region) 配列を有し、DNAの複製方向と遺伝子の転写方向が衝突する向きに配置されたベクターです。その衝突点にMAR配列が存在することによって、がん細胞が持つ遺伝子自律複製機構を効率よく利用することを可能にします。

本技術の優位性は、多種多様な哺乳動物細胞に適用可能であること、ヒトおよび動物由来タンパク質を本来の生理的条件下で大量に生産可能なこと、極めて簡便な操作で作製可能なこと、ウイルスや微生物などを使用しないため、安全性の高いタンパク質製品の生産が可能であることなど、多くの利点を有しています。



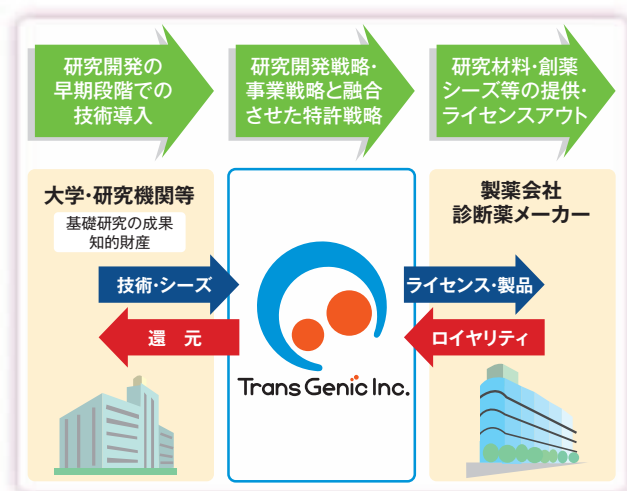
IR : mammalian replication initiation region (哺乳動物複製開始領域)  
MAR : matrix attachment region (核マトリックス結合領域)



# 知的財産戦略

## 知的財産戦略の方針

当社は、創薬ターゲットを探索している製薬企業に数多くの有益な研究ツールや創薬シーズ、技術情報、知的財産を提供することにより、パートナー企業とともに医薬品開発に貢献したいと考えております。



当社は、大学・研究機関等などの共同研究を積極的に行い、当社事業とシナジー効果が発揮でき得る技術を、研究開発の早期段階において導入することに努めております。研究開発の早期段階での技術導入により、その技術が公開される前に確実な知的財産権を確保するとともに、豊富な実験データに裏付けられた強い特許、将来のマーケティングを見据えた特許網を構築すべく、研究開発、事業戦略と融合させた特許戦略を展開しております。

さらに、導入した技術を付加価値の高い技術や知的財産に育て、これらの技術から生まれた独自性の強い製品・サービスを提供するとともに、知的財産、技術情報のライセンスビジネスを展開しております。

知的財産のライセンスについては、製薬企業、診断薬メーカーなどの開発・事業のステージにあわせたマイルストーンを設定することにより、複数の事業ドメインを対象としたハブアンドスポークモデル型のライセンス契約とするなど、戦略的な知的財産の活用に努めております。

## 事業ドメインと知的財産の関係

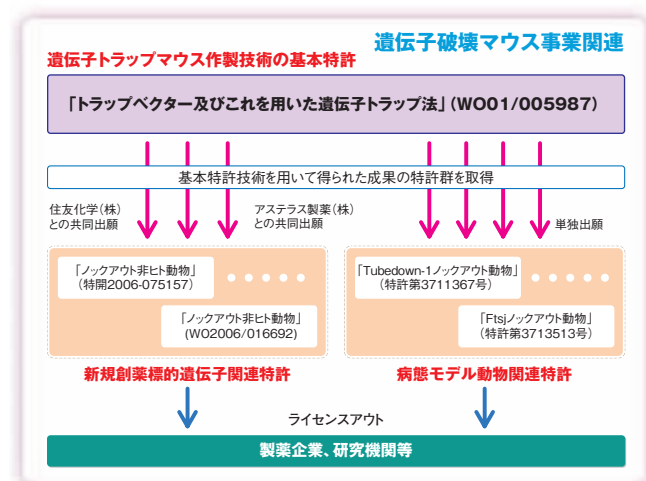
### 遺伝子破壊マウス事業関連

可変型遺伝子トラップ法による遺伝子トラップマウスの作製技術は、財団法人熊本テクノポリス財団（現・財団法人くまもとテクノ産業財団）から2000年に当社に譲渡され、現在、国際出願（WO01/005987）によりカバーされております。

可変型遺伝子トラップ法により作製された遺伝子破壊マウスから得られる遺伝子機能情報を、アステラス製薬株式会社ならびに住友化学株式会社に対して独占的に提供し、新規の創薬標的遺伝子関連特許（特開2006-006151、特開2006-075157、WO2006/016692）の創出へと結びつきました。今後、これらの発明をもとに新薬や新規スクリーニング方法の開発が期待されます。

さらに、自社独自の研究においても、新薬開発のための病態モデルに利用できるtubedown-1遺伝子やFtsj遺伝子が破壊されたノックアウトマウスに関する病態モデル動物関連特許（特許第3711367号、特許第3713513号）を取得いたしました。

ジーンターゲット法による遺伝子改変マウス作製技術は、パスツール研究所（フランス）が保有する相同組換え法による遺伝子改変技術に関する基本特許（特許第3059481号、特許第3298842号、特許第3298864号）によりカバーされております。



# 知的財産戦略

当社は、本発明のサブライセンス付き独占の実施権を保有するセレクトイス社（フランス）より、非独占ライセンスを取得し、当該技術による遺伝子破壊マウス作製受託サービスを製薬企業や研究機関に提供しております。

## 抗体事業関連

GANP<sup>®</sup>マウスを用いた高親和性抗体の作製技術は、株式会社イムノキックが保有する国際特許出願（WO00/050611およびWO2004/040971）によりカバーされております。当社は、株式会社イムノキックより本発明のサブライセンス付き独占の実施権を取得し、社内で新規抗体の作製や既存抗体の高親和性化に利用するとともに、当該技術の製薬企業や研究機関等に対するライセンスビジネスを推進しております。今後は、ニーズの高い新規の抗原に関してはGANP<sup>®</sup>マウス技術により作製した抗体を権利化するとともに、既存の抗原に関しても高親和性化された抗体に関する特許権の獲得を目指します。

また、様々な分野で利用される抗体製品の開発と特許権の取得を進めております。自社開発の成果としては、腫瘍マーカー関連として、ジアセチルスベルミンに関する高特異性モノクローナル抗体に関して、2006年6月に日本国内において特許を取得いたしました（特許第3816512号）。本特許に関しては、モノ

クローナル抗体を複数の診断薬メーカーに有償提供するとともに使用権を許諾しており、現在、複数の診断薬メーカーが本発明を利用した診断薬の開発を進めております。

また、環境ホルモン関連では、抗ビテロジェニン抗体の開発に成功しており、基礎技術は特許出願（特開2000-125867および特開2002-256000）によりカバーされております。本技術は、環境ホルモンの指標物質であるビテロジェニンに対する抗体に基づくものです。ビテロジェニンは、本来メスの体内にのみ存在するタンパク質ですが、環境ホルモンに曝露されることで、オスも体内でビテロジェニンを生成するようになります。このため、本技術によるビテロジェニン測定は、環境ホルモンの生物への影響を評価するために有用です。

## 特許・ライセンスの事業への貢献

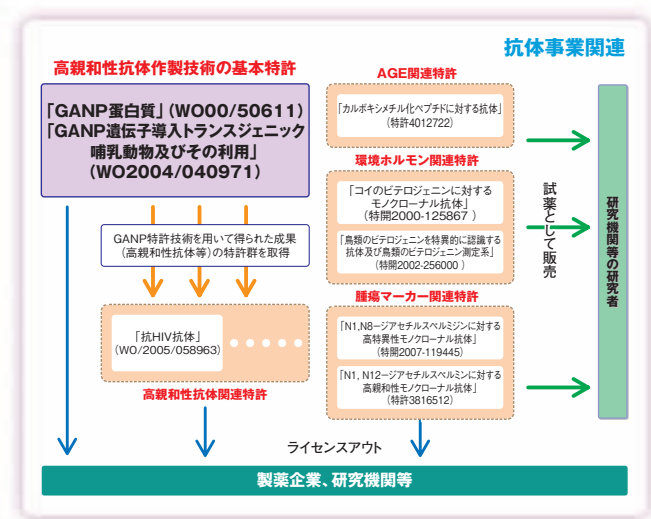
当社特許の事業への貢献度は高く、当社は保有特許の極めて高い実施率を保っております。また、積極的なライセンスイン、ライセンスアウトを通じて、直接的な収入の増加のみならず、事業の優位性を図り、将来を見据えた中長期的な知的財産戦略を実行しております。

## 事業戦略、研究開発戦略、知的財産戦略の横断的な取り組み

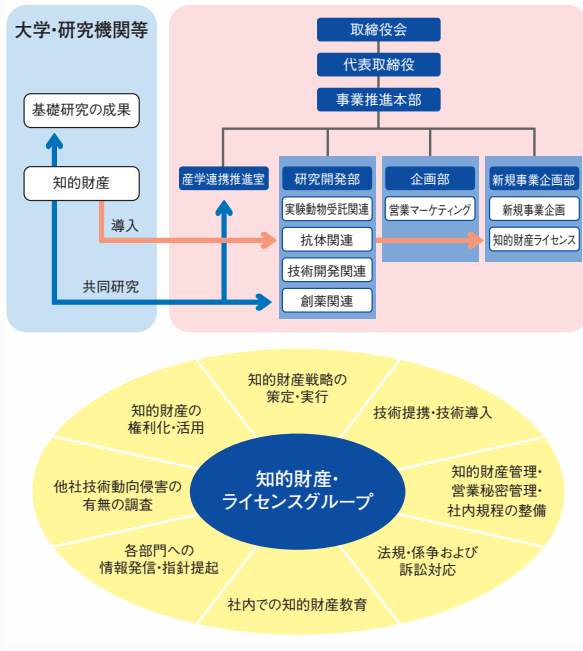
### 研究開発および知的財産組織体制

当社は、事業推進本部の下に研究開発部、企画部、新規事業企画部、産学連携推進室を設けております（図参照）。

研究開発部は、実験動物受託関連部門、抗体関連部門、技術開発関連部門、創薬関連部門の4つのグループからなり、相互協力のもと技術開発、製品開発を進めるとともに、新規技術導入や創薬を目的とした研究開発を進めております。企画部は、営業グループを中心に受託サービスの窓口等営業活動を行うとともに新規技術調査や学術調査、業界動向調査を行っております。新規事業企画部は、新規事業の企画・戦略立案および推進、他社とのアライアンスを含めたビジネスの構築を行っております。新規事業企画部内に知的財産・ライセンスグループを設け、知的財産戦



## 研究開発および知的財産組織体制



略の策定・実行から自社で創出された技術の権利化や活用、さらに他社の技術動向の調査や侵害の有無、技術提携や知的財産の戦略的な導入等、知的財産に関する業務全般を扱っております。また、社内での知的財産教育にも努めており、社内各部署への自社・他社の知的財産関連情報の発信、戦略的な知的財産の取得を目指した研究開発の指針などの提起を行っています（図参照）。また、産学連携推進室を設けることで、大学などの学術機関との連携の強化に努めております。

## 知的財産業務における社外機関との連携

当社のようなベンチャー企業にとっては、国内外の大学などの学術機関や製薬企業などとの連携が極めて重要となります。当社は、知的財産・ライセンスグループを中心に、大学の知財部やTLO（技術移転機関）から積極的に技術導入やライセンスを受けると同時に、製薬企業や委託企業などとの業務提携や技術提供を行い、当社事業の拡大・強化に努めています。また、グル

ープ会社への支援を行う一方で、技術の導入も受け、双方の発展に貢献しています。さらに、顧問弁護士や弁理士、医薬コンサルタントとの協力体制のもとで、事業運営と発展に努めております。

## 知的財産・営業秘密管理等

顧客からお預かりした技術情報や研究材料、自社の知的財産などは、当社にとって重要なものであります。ゆえに、その管理には細心の注意を払い、知的財産・ライセンスグループが一元的に管理しております。また、技術情報の管理は、その取り扱いや管理方法の指針の確立に努め、社内一丸となって取り組んでいます。全社員への知的財産教育を徹底し、機密情報の漏洩防止や情報のコンタミネーションの防止に努めています。さらに、当社は、特許法第35条に規定する職務発明に関し、報奨制度・社内規定を策定し、自社内の発明を奨励するとともに、技術・情報流出防止を徹底しております。

## リスク対応情報

2008年3月末時点において、当社に対する特許訴訟やクレームはありません。当社は、自社知的財産の管理・運営のみならず、他社知的財産の調査・監視を徹底しております。新たな研究開発を開始する前には、特許事務所等へ特許調査を依頼し、自社技術が他社の特許侵害に当たらぬよう、リスクマネジメントに努めております。

### 注意事項

本報告書に記載されている、当社の経営戦略、方針、計画、事実認識など、将来に関する事項の記述にあたっては、当社が現在入手している情報に基づくもので、一定の前提に基づいたものです。その前提は、経済環境、研究開発状況、競争環境等の状況に依存するものであり、この前提が変化する結果、本報告書に記載されている、すでに実現した事実以外の事項は変更する可能性があります。また、その前提については、客観的に正確である、あるいは将来実現する、という保証はありません。



# 株式会社トランスジェニック

株式会社トランスジェニック

IR・広報担当

〒650-0047 神戸市中央区港島南町7-1-14

TEL:078-306-0590 FAX:078-306-0589

<http://www.transgenic.co.jp>